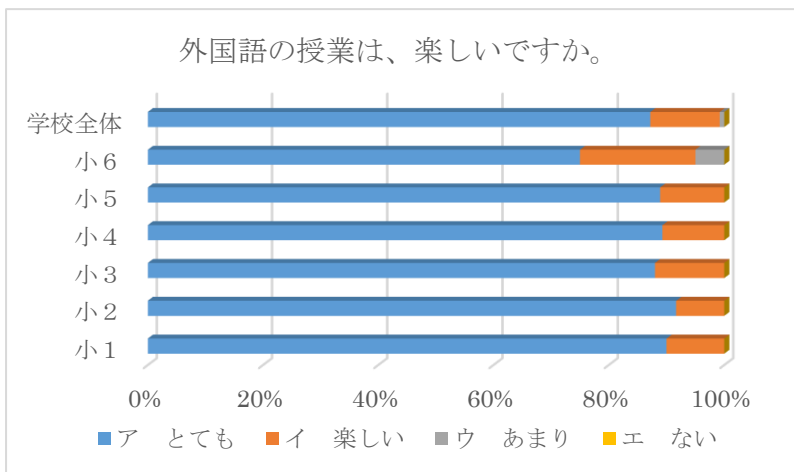
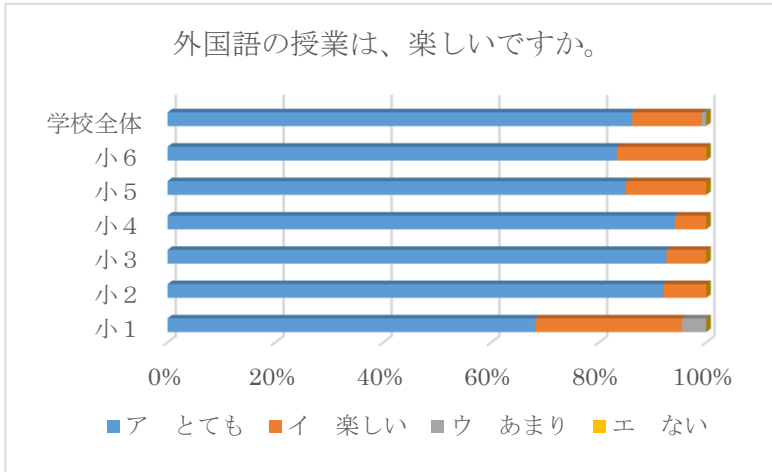


令和6年度 外国語に関する調査 (R6.12月実施)と考察 ※令和5年度は令和5年12月に実施

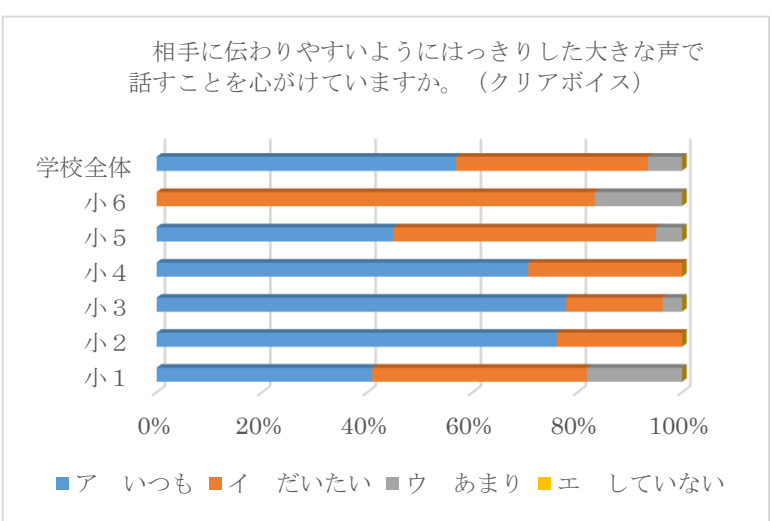
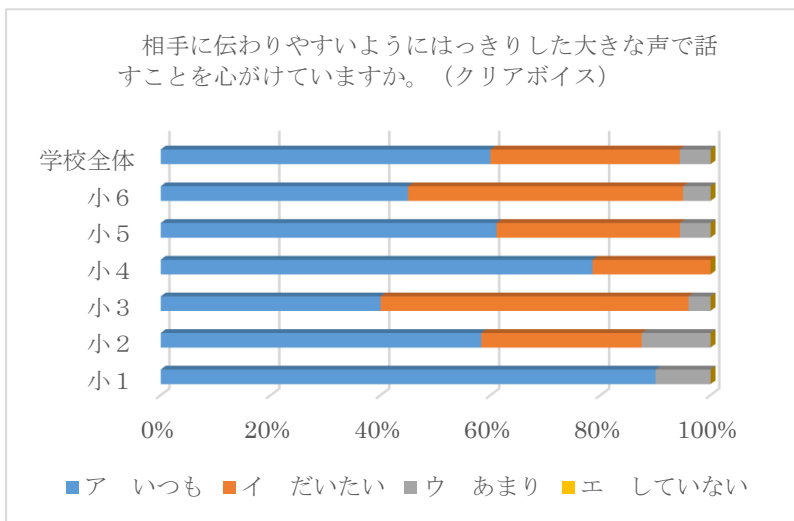
【R6年度】



【R5年度】

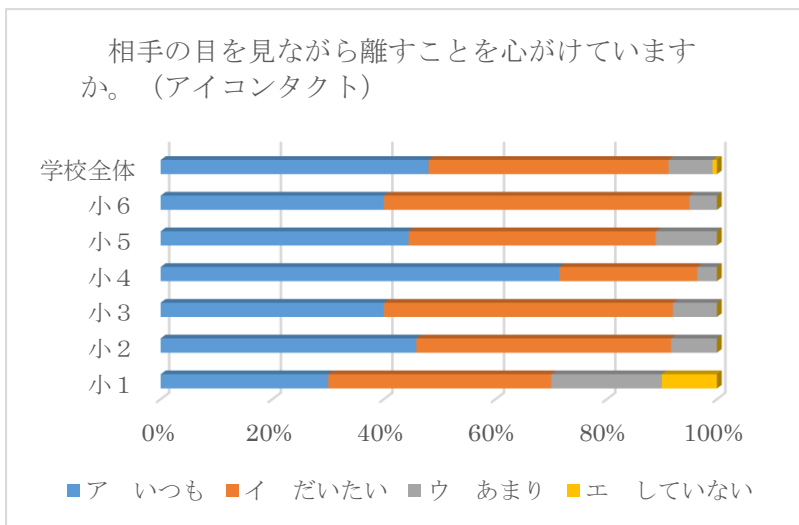


【考察】
 外国語の授業を9割以上の児童がプラス傾向の評価をしている。昨年度に比べ、学校全体としても「とても」と回答する割合が増加し、年々、児童の興味・関心は高まっている傾向にある。

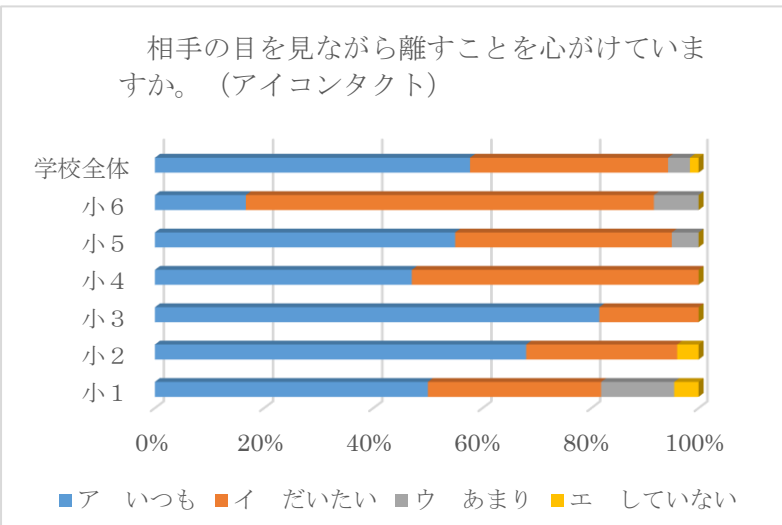


【考察】
 学校全体としては、9割程度の児童が、はっきりした大きな声で対話をしていると回答している。一方、昨年度に比べ、学年によっては、マイナス傾向の評価の割合が増加し、発達段階に応じた学習活動を位置付けていく必要がある。

【R6年度】

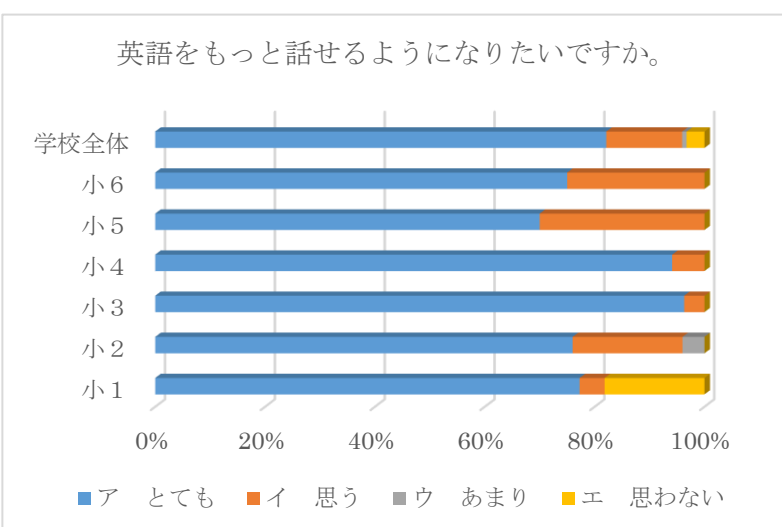
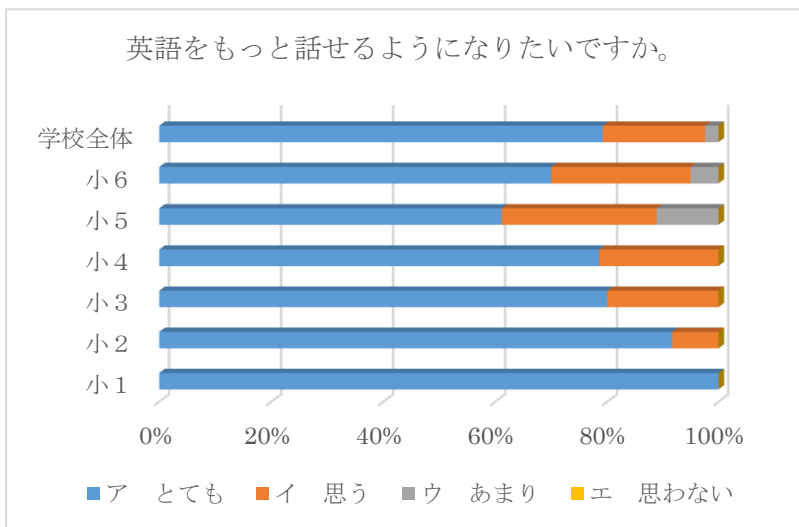


【R5年度】



【考察】

学校全体としては、9割程度の児童が、プラス傾向の評価であるが、昨年度に比べ、全体的に「いつも」心がけている割合はやや低下し、今後、相手意識を一層高めながら対話活動に取り組んでいく必要がある。

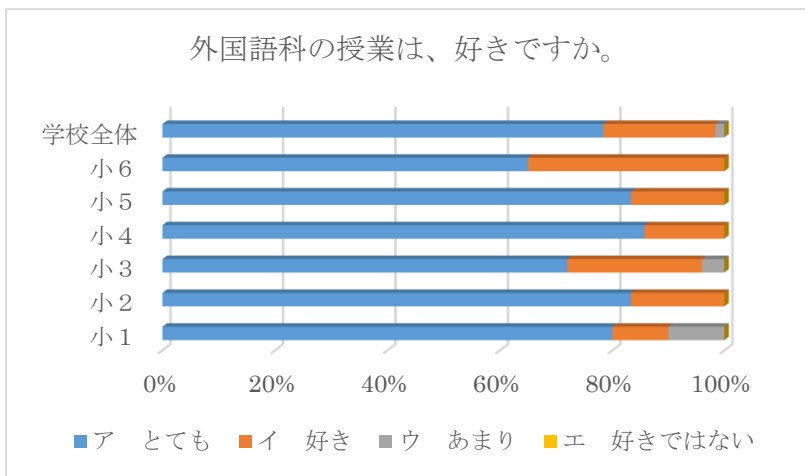


【考察】

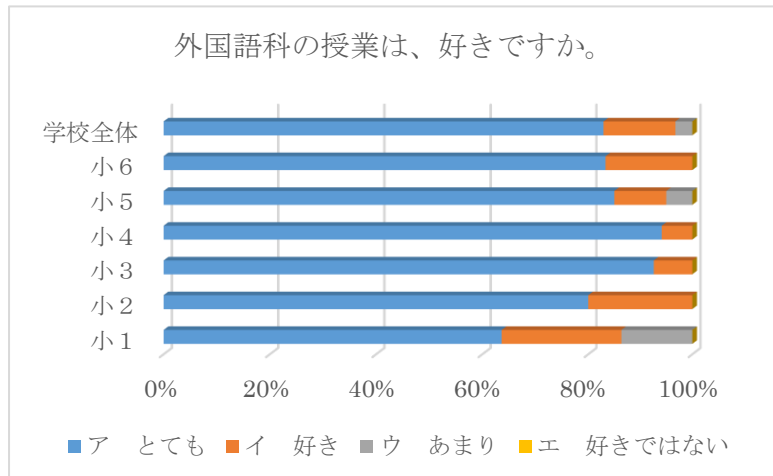
昨年度に比べ、学年によってはマイナス傾向の評価の減少が確認された。このことから、英語を使ってみたいくなるような単元構成や授業づくりの工夫が効果的であったと考える。

特に、低学年ではALTの効果的な活用が生かされていると考える。

【R6年度】

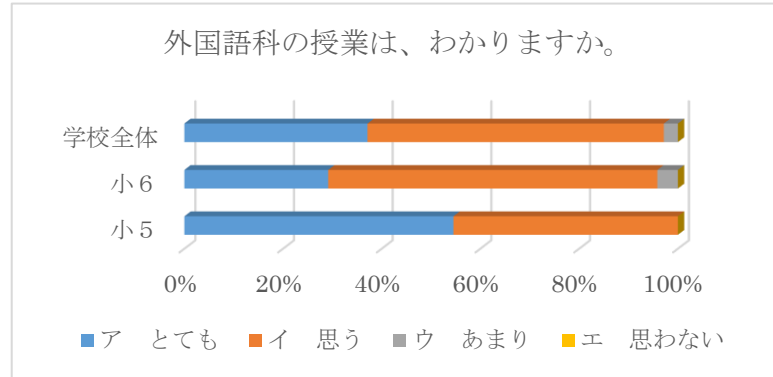
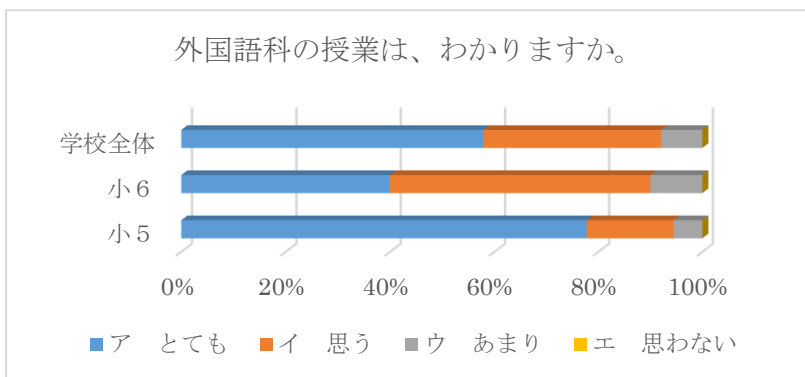


【R5年度】



【考察】

全体的に、外国語の授業を楽しみにしている児童の割合が高い。しかし、昨年度に比べ、マイナス傾向の回答をする児童数が増加した学年も確認され、今後も、一人一人を大切に授業づくりに取り組んでいきたい。



【考察】

昨年度に比べ、「とても」や「あまり」と回答する児童の割合が増加し、理解度の差が感じられる。今後は、一層の英語専科による授業の充実、ALTとの連携を基に、一人一人にとって分かりやすい授業づくりに努めていきたい。

【保護者・学校関係者からの感想】

- 英語専科の先生から、専門的かつ分かりやすく英語を教えてもらい、子どもたちが意欲的に楽しく学んでいる。
- 低学年時から、流暢な英語を聞いたり、ALT(外国人)に話したりできる学習環境が整っていることがとてもよいと思う。